

図書館通信 — 28 —

1974. 9

地域とことば

中 條 修

話は数ヶ月ほど前のことになるが、ある犯罪事件を通じて、地域言語の研究が実用の学としても役立つことが実証され、時の話題になったことがある。その事件というのは、近鉄デパート爆破未遂に関わるもので、ある言語学者の協力によって、事件を未然に防ぐことに成功した。そこで、警察当局は今後この種の事件に対する科学捜査活動の一環として、言語学者に協力を依頼することにした、というニュースが報道され、新聞にも載ったので記憶されている方もあられよう。犯人がかけてきた脅迫電話を録音したテープ（実際には、1分ほどのきわめて短いしかも断片的なものだが）の声を分析し、ことばの上から犯人の出身地の範囲を限定したことが、逮捕に直接の手がかりを与えたのである。ことの詳細については、金田一春彦氏が雑誌「言語」7月号（『日曜爆弾魔の声のテープから』）に書いておられるので、興味のある方は一読されるとよい。

ことばは社会的慣習の産物だ、といわれる。私たちは自分が生まれ育った地域社会で使われていることばを、自然に覚えて習慣的に使っており、日常生活の場でのコミュニケーションに著しい障害が起こらないか、または何らかの文化的衝撃を受けない限りは、自分が話すことばに注意を払うようなことはしないのが普通である。人間が地域社会の言語を習得するのは、ことばを自発的に使いはじめる3～4才頃から12～13才頃までの間で、この期間を一般に言語形成期と呼ぶ。そして、この間に形成された言語習慣は一生抜けにくい。「方言はお国の手形」と言われるのはまさにこの事情を説明したものである。（誤解されるむきも少なくないので一言つけ加えておくが、以下で使う方言というのは、ある地域社会の言語体系の総体を指しており、たとえば、「かたつむり」をカサンドーというのは俚言であって、方言とは区別される。）

もちろん、言語（方言）も時代の推移につれてその体系が変化する。現在の京都語を八世紀頃の京都語と比較すれば、音韻・アクセント・文法・語彙のどの体系にも、かなりの変化が見られるのは周知のとおりである。だが、概して言語体系の変化はきわめてゆるや

も く じ

地域とことば	
中條 修……………	1
私のすすめたい本・26	
昆虫の本	
草間慶一……………	3
天 花 粉	
上野実朗……………	4
静岡大学教育学部附属	
浜松小・中学校関係	
資料目録……………	5
浜松分館だより	
図書館と鉢物園芸……………	6
教官著作寄贈図書……………	6
中国国立北京図書館の	
交換資料 一本館……………	6
おしらせ 一本館……………	6

かで、人間の一生のごとく短いspanは、一地域の言語体系は比較的安定しており、その地域に住む人びとはほぼ同じ体系を保持している、と考えられている。しかし、現代のように、科学が放送・通信の手段や、交通機関の発展を促進し、政治・経済・文化のすべての面で、時間的にも空間的にも地域差が急速に失われつつある社会状況のもとでは、共通語がこれまで以上に地域言語に強い影響を与えるのは当然であろう。

中央図書館の依頼で県下の方言の録音採集に出かけたり、研究会のメンバーの学生諸君と安倍川流域の言語調査を行なってみて、各地で方言の特色が薄れて、共通語化への傾向がだいぶ進行している点が印象に残った。特に、方言色を感じさせる語彙は、地元の人たち同志のごく自然な会話の中で、どんどん共通語にとって代られている。60才以上の高年層の人でも、以前はよく使ったと思われる語形を、時間をかけなければ思い出せない場面しばしばぶつかった。40才代の中年層の人たちは、メ^メヨシ〈おたまじゃくし〉、オ^オジャミ〈お手玉〉、ジンジーバンバー〈すみれ〉、カーブリ〈蝶〉などの語を耳にして、その意味が理解できても自発的に使おうとはしないし、若い世代には意味さえわからない人が多い。文法の場合は、静岡方言の体系がもともと共通語とほぼ同じこともあって、語法を支配する独自の構文上の規則は少ないが、若干の助詞や助動詞の～ズラ、～ラ（推量）；～ズ（意志）、～ザー、～ズ（ヨ）、～マイカ（勧誘）；～ノ（否定意志）；～ンテ、～ダンテ（原因）；～ツケ（回想）；最近若い人たちが盛んに使う～ジャンや、サ行のイ音便化現象、可能動詞をヨメル（能力）、ヨメール（条件可能）の二様に使い分けることなどは、方言の特徴として現在も生きている。

語彙や文法に比べて、音韻やアクセントの特徴は、かなり根強く保たれる。とりわけ、言語形成期に一旦習得されたアクセントは、なかなか抜けにくく、修正が困難であって、方言色が最後まで残る。静岡がはじめての人には、ココロ、クジラ、クツ、キシャ、ガクブ、キタ〈来た〉や、一段動詞オキル、ダベルの類などの頭高型のアクセントは、耳立って響く。先の金田一氏が、犯人の出身地を限定する際に、もっとも有力なよりどころにされたのもアクセントであった。音韻では、連母音〔ai〕・〔oi〕・〔ui〕の融合音、たとえば〔akæ:〕〈赤い〉、〔kurɸ:〕〈黒い〉、〔mary:〕〈丸い〉や、〔jennokoro〕〈犬の子〉、〔aʃe〕〈汗〉などの口蓋化音、「ヒ」と「シ」の混同等があちこちで観察されるし、また上流地域

では、パシル〈行く〉、ボキダス〈吐きだす〉のように、語頭に立つP音も聞くことができる。母音の無声化（無声子音には含まれた狭母音の〔i〕・〔u〕が声を伴わないで発音される現象）が目立たないことも、特徴の一つである。ごく最近耳にした語に〔su:to〕〈スト〉がある。〔u〕の部分が無声化されず、しかも若干延ばして発音される。

話題は異なるが日本語の構造をよく理解させることが、外国語教育に有効であることは、論をまつまでもない。ことに、音声指導の場合には、学習者に自分が話す方言の音声上の諸特徴を理解させて、外国語の音声との違いを十分自覚するように仕向ければ、かなりの効果が期待できるだろうと思う。単に教師や語学テープの発音を聞かせて、自動的に口真似させるだけでなく、学習者の知的能力の活用も取り入れる必要がある。例をあげてみる。東日本地域の「ウ」は、平口で唇を丸めないうで発音される。だから英語の〔u〕とはちがう点に注意すべきである。語中のガ行子音を鼻濁音の〔ŋ〕で発音する人は、English, hungry などの〔ŋ〕の発音が不得意であるのに対して、破裂音の〔g〕で発音する人は、bringing, singing の〔ŋ〕は苦手だ。window の〔n〕は、カ^ンダ^ク（神田）の^ンと同じ要領で発音すべうまく行く。また、静岡市内のように無声化が目立たない地域の人には、speed, screen などを発音する場合、無意識のうちに〔sp—, sk—〕の間に〔u〕がはいる傾向が強い。

ことばは、土地の風土や文化と密着した生活の中で生きる。生活集団がちがえば、その社会ごとによことばも異なる。方言には土地の人びとの心が反映しており、共通語にはない暖かさを感じるのである。

（教養部 助教授）

じょうほう じょうほう じょうほう じょうほ
兵庫県同和教育関係史料集 第3巻 兵庫県立
教育研修所編 兵庫県教育委員会刊 昭和49
兵庫県立教育研修所所蔵史料のうち大岡家文書等
の74ヶ所蔵書文書をえらび載録してある。

加越能マイクロフィルム資料解説目録 富山県
立図書館編刊 昭和48

金沢市立図書館が所蔵する「加越能文庫」その他
の中から越中を主とする加越能全般にわたって重
要なもの約2,000点を選び出して、マイクロフィ
ルムに収めたもので、富山県立図書館が所蔵している。

八杉文庫目録 東京外国語大学附属図書館
昭和48

ロシア語学者 八杉貞利氏旧蔵書目録 東京外国
語大学附属図書館が所蔵している。

以上の図書はいづれも本館が受贈しました。

昆虫の本

草間慶一

「自然オンチ」なる面白い文を8月16日の毎日新聞の憂楽帳に見出した。それはセミ取りに来た子供達がちっともセミを取ることが出来ない。それはセミがいいるのではなくて見付けられないのであった。あそこにセミがいると教えてやっても、取りそこなって逃がしてしまう。自然を相手にこれ程不器用な子は昔はいなかった。自然のふところの中で、手も足も出ない「自然オンチ」ともいふべき人が増加すれば、それは決して好ましいことではない。なによりも自然への親しみの度合いが薄いであろうし、自然に対し強い愛着のわくはずがない。今後数代にわたって続けねばならぬ自然保護運動の前途がふと気になった。と結んでいる。

昆虫の世界は我々人類の属する脊椎動物の世界とは非常に異っているが、その差に気付く人は余りなく、昆虫採集を罪悪視し、これを禁止することが自然保護の一つと考えるエセ自然保護者への一つの警告とも言える。

こゝではその様な人達の増えないようにと、昆虫とは何かを知る助けになるような本を選んで見た。

「昆虫という世界」文：日高敏隆 写真：浜野栄次 255頁 カラー写真40枚 白黒写真56枚 48年初版 朝日新聞社 980円。

これはアサヒグラフに1969年から1年余にわたって連載された写真と文を一冊の本に纏めたものである。その為一般的で昆虫に対して余り予備知識のない人でも気楽に読める。「一次元生活者たち」「現代のニンフたち」「愛の掟」などこった名前の55の項目よりなり、それぞれ4頁ぐらいの解説と1枚以上の写真が付いており、面白そうな項目から読めば良い。

※「擬態、自然も嘘をつく」W・ヴィックラー著 羽田節子訳 293頁 カラー図版25枚 白黒図版24枚 45年初版 世界大学選書 平凡社 600円。

これも見て楽しい本である。昆虫の擬態が主であるが、トリ、サカナ、ヘビ、マキガイなどの例も引いてある。我々が一口に擬態と言いついた用語が、日本においてははかに混乱し、無神経に非科学的に用いられて来たかが良くわかる。ベーツ型擬態やミュラー型擬態などの実例がカラー図版で示されており、また擬態の起源や進化論との問題についてもふれている。

※「昆虫学への招待」石井象二郎著 210頁 24図

18表 45年初版 岩波新書 岩波書店 230円。
「昆虫の食性」(アズキゾウムシ),「昆虫の栄養」(ニカメイガ他),「マタタビの魅力」(クサカゲロウ, ネコ),「性誘引物質」(マイマイガ, カイコガなど),「昆虫の集団」(ゴキブリ),「昆虫と人間」の6項からなっており、著者の昆虫を材料とした実験を主体とし、それに関連した諸外国の研究を加えて読物としてあるので、かなり程度の高い本である。しかし昆虫の特異性については実に良く書かれており、私も読後この点について再認識させられた。特にゴキブリの話は面白く、集団で生活する方が成長が促進され、それは糞中に含まれる物質によるので、ゴキブリは自分の糞のある所に集まって来るとのことである。

「昆虫の生活史と進化」正木進三著 208頁 53図 49年初版 中公新書 中央公論社 340円。

「コオロギはなぜ秋に鳴くか」という副題がついており、エンマコオロギは秋になると鳴き出すがエゾスズは春に鳴くが、どこが異っているかと言う生活史の研究から、気温や光周期と翅の長短や生息地との関連などについて述べ、気温への適応と種の分化、日本産のコオロギの起源やその進化について論じている。また「自然のきずなど生活史」中のアメリカの17年セミは17年目の初夏のある日のほんの2~3時間の間に一せいに何万という幼虫が地表にはい出して来ると言う話は昆虫の不思議さを実に良く示している。

「私の進化論」今西錦司著 253頁 45年初版 思索社 680円。

昆虫とは関係ないが進化の問題について進化論に興味を有する人にとっては必読の書である。「正統派進化論への反逆」「ダーウィン、その進化論と私の進化論」の項が一番大きな問題を提供している。個体の進化を中心とするダーウィニズムに反論し、種の集団的進化が生物進化の基礎であると言う説で、私自身もダーウィンの進化論に非常な疑問を有していたが、この本により一つの新しい考え方を知り非常に有益であった。

※印は本館所蔵 (理学部 教授)

じょうほう じょうほう じょうほう じょうほう
学術雑誌総目録自然科学欧文編1975年版
が文部省大学学術局監修のもとに編集がすすめられ、昭和50年3月ごろ刊行予定です。

この版よりコンピュータ編集・製作により従来の3ケ年から、6ヶ月で編集・刊行が可能とのことです。

天 花 粉

上 野 実 朗

「風呂からあがると、待ってましたとばかりお姉ちゃん。前を向けの、うしろを向けのと、口やかましいったら母ちゃん以上だ。そしてこの粉、なんちゅったっけ、そうそうテンカファン。においはいいが、むせっかえるし、くすぐったいし、うわーっ、もうたくさんだ、やめてくれーっ」(朝日新聞・日曜版 49・7・14。)

さて、この天花粉は普通、天瓜粉と書き、ウリ科のキカラスウリの塊根からとったデンプンを原料としている。つまり瓜からとった粉で、花の花粉ではない。

しかし新村出の広辞苑には天花粉・天瓜粉と併記してあるので、何か根拠があるらしい。花粉を勉強している私には、花粉と名がつけば何でもとびつく悪いクセがある。さて花粉という単語を日本語でつくったのは舜民・伊藤圭介とされている。彼は泰西本草名疏を文政12年(1829年)にドイツの春別爾孤(ツンベルグ)の原著から日本語に訳すときに花粉の語をつくったらしい。しかしこの書は静岡図書館にはないので、国会図書館にコピーを依頼している。つまり花粉は日本語になってから145年たっていることになる。文政12年という年は江戸の大火が3月にあり、戯作者の初代・鶴屋南北が75才で死んでいる。伊藤圭介は当時の偉大な学者で、それより2年前の文政10年(1827年)に物理学を唱えている。

この徳川末期のすぐれた学者の泰西本草名疏を静岡に居ながらコピーが読めるのも、静岡大学附属図書館のサービス業務のお陰である。私はもともと歴史が好きで、とくに植物などの博物の歴史に興味をもっている。最初に東京大学文学部東洋史学科を卒業した頃は、そのまま東洋史では不足している分野の東洋自然科学史の勉強をしたかった。ところが東洋で自然科学の主流は本草学とよばれる「草に本づく学問」(植物・動物・鉱物・天文など)が多少とも分らないと都合が悪い。そこで京都大学理学部植物学科に入学した訳である。さて現在は花粉学と称する学問を専攻しているが、もしも花粉の名付け親が伊藤圭介ならば、一度はその原典を読まねばならない。

幸に図書館で仕事をして一年目。どうやら少し勝手がつかめた処で自分の勉強と趣味をも兼ねて書庫に入って和漢洋の書物を見るのを楽しみにし

ている。しかし手順として、まずカードや目録を一覧して、所在を検討しておく必要がある。20万冊以上を蔵している附属図書館書庫である。やはり尋ね先を調べておくことが便利である。不幸にして本学にない時は、国会図書館には大体揃っているから、これを利用するとよい。しかしこの場合も、和書ならば国書総目録(岩波書店・昭和41年)などで書名をしらべ、出版年、所有する大学または図書館を知り、希望を明示して問合せをする必要がある。私はいま泰西本草名疏の文政12年の跋のある本と、手稿本でシーボルトの書入のある本のコピーを依頼している。秋風の吹く頃、この名著にお日にかかれるのを楽しみにしている。

このような研究は誰にも何時でも必要ではないかも知れない。しかし誰かが何時か必要となるかも知れない。文献研究には文献と目録とが必要である。目録作製の仕事は地味で労多くして、しかも理解されにくく、また利用する人も限られている。それでも必要なことには変りはない。毎年、全国各地で出版される書籍は極めて多い。しかも我々の目にふれる機会は少ない。そこで目録を製作して広く知ってもらふ必要がおこる。本屋の出版目録はこれである。しかし静岡大学としても毎年購入する書物は1万冊をこえる。これらは発注・受入・登録・配置して利用できることになるが、この目録作製の苦労と費用は誠に多大である。今年もまた昭和47年度の蔵書目録出版の用意をしたい秋になった。しかし乏しい予算の中で果してどんなになるか心配である。全学の皆様方の温かい理解と協力が得られれば幸である。

(図書館長)

じょうほう じょうほう じょうほう じょうほう

Encyclopaedia Britannica 新版(15th ed)を参考室用として購入しました。この新版は、検索に応じて、3部にわかれ、索引や文献で各々関連づけられており、まず、750語以下の小項目事典(索引付き)が10巻(項目数102,214項目)詳しい大項目事典が19巻(参考文献付き)で項目数は4,207、さらにジャンル別にわかれた系統的な手引が1巻、と全30巻の構成になっています。

静岡大学教育学部附属 浜松小・中学校関係資料目録

浜松小学校

- 教育研究会要項 昭和35年6月25日(第1日)
20 p 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
- 教育研究会要項 昭和36年6月30日(第1日)
21 p 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
- 教育研究会要項 昭和37年7月3日(第1日)
19 p 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
- 教育研究会要項 昭和38年7月6日(第1日)
[20 p] 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
- 教育研究会日程 —1965— 第1日 第2日
32 p 36 p 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
- 新教育課程の研究 —道徳—第2次—
[1960] 88 p 26cm
- 新教育課程の研究 —各教科 第2次—
[1960] 110 p 26cm
- 新教育課程の研究 —特別教育活動—
1961 103 p 26cm
- 新教育課程の研究 —特別教育活動— 創造性を
育て意欲的な実践を求めて
1962 127 p 26cm
- 学習効果をたかめる指導法 すじみちに合った
学習指導法豊かな表現力を育てる学習指導法
1963 151 p 26cm
- 目標にせまる主体的学習 —過程をたいせつに
する学習— 国語・社会・音楽・体育・道徳
1965 74 p 26cm
- 目標にせまる主体的学習 —過程をたいせつに
する学習— 算数・理科・図工・家庭
1965 67 p 26cm
- 教育研究発表資料 ねらいにせまる発見的学習
[第1日 第2日]
1966 74 p 76 p 26cm
- 創立50周年記念文集 すみれ 低・中・高学年
1966 64 p 81 p 70 p 26cm

浜松中学校

- 教育研究会要項 教科の系統的指導への歩み
—第2次報告— 1960・6・25
12 p 26cm
後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会

教科の系統的指導への歩み —第2次報告—

1960 158 p 26cm

教育研究会要項 教科の系統的指導への歩み

—学習の深まりをめざしての指導—

1961・6・30 22 p 26cm

後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
教科の系統的指導への歩み —第3次報告—

1961 170 p 26cm

公開教育研究発表会要項 よりよい教科指導の

研究 —ひとりひとりの学習の深まりをめざ
して— 1962・7・3

20 p 26cm

後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
よりよい教科指導の研究

1962 202 p 26cm

公開教育研究発表会要項 よりよい教科指導の

研究 —教材のねらいと学習指導—

1963・7・6

15 p 26cm

後援: 静岡県教育委員会・浜松市教育委員会
よりよい教科指導の研究 —教材のねらいと学
習指導—

1963 45 p 26cm

教育研究発表会要項 よりよい教科指導の研究

—創造性を育てる学習指導 第2次報告—

1965・6・26~27

23 p 26cm

よりよい教科指導の研究 —創造性を育てる学
習指導— 第2次報告

1965 118 p 26cm

教育研究発表会要項 よりよい教科指導の研究

—創造性を育てる学習指導 第3次報告—

1966・7・1~2

33 p 26cm

よりよい教科指導の研究 —創造性を育てる学
習指導— 第3次報告

1966 117 p 26cm

道徳教育の歩み 第4次報告 劣等感について
—教科において、劣等感をもつものを如何に
指導するか—

昭和30 186 p 26cm 謄写版

教材の特質にそくした学習過程のくふう

東京 明治図書 1971

212 p 22cm

この目録は静岡大学教育学部附属浜松小・中
学校が編集した資料で本館に所蔵しているものです。

■浜松分館だより

図書館と鉢物園芸

私が盆栽を始めてすでに10年あまりになるが、盆栽と言われるほどの物がなく、他人が見れば単なる鉢物かもしれない。しかし、私は自分勝手にこの小さな鉢物を毎日眺め、一人自己満足をしている。

浜松分館が新築されて2年3ヶ月あまりになるが、この時よりフラワーボックスを設置すると共に、カードボックス、カウンター、事務室の応接机の上等に、盆栽、観葉植物、花の咲いた鉢物等をならべて楽しんでる。

例えば、1月は梅の仲間、2月はボケ、黄梅、3月シンビデューム、シクラメン、4月君子蘭、フリージャー、5～6月つつじ、さつき類、7～8月ミニバラ、ゼラニウム、ペコニヤ等が次々に咲いて、目の保養をさせてくれている。その他に、一年中観賞できる観音竹、ゴムの木、ドラセナの仲間、蔦の仲間は、開館当時よりいまだに健在であることは有難い。

今年も3月15日植えの鶯草が一本の茎から4～5個の蕾をつけ、元気に育っているが、2～3日前より咲き始めた。純白の花を見ていると、いかにも神秘的で、童心に帰る思いがする。

これから秋にかけて、もみじ、かえで、岩ひば等の葉もの、白シタン、紅シタン、ピラカンサス、蔦梅擬等の実もの盆栽をはじめ、花の鉢物をたくさん持ち込もうと、今から準備を進めると共に、少しでも入館される教職員、学生の皆さんの目の保養と、心の安らぎを与えることができれば幸せと、毎日の水やり、施肥、消毒等に気をくばっております。

(係長 高山弘一郎)

■教官著作寄贈図書 一浜松分館一

小林清志 (工学部 教授)

移動論 (機械工学基礎シリーズ 6)

(朝倉書店 昭和48)

石田健二郎 (工学部 教授)

歯車の歯形設計法

(日刊工業新聞社 昭和39)

■中国国立北京図書館の交換資料 一本館一

先に資料交換の申し出のありまた中国国立北京図書館より下記資料の送付を受けました。

植物学報 第16巻 第1期十

- 中国植物学会編輯 科学出版社 (中文)
- 植物分類学報 第12巻 第1期十
- 中国植物学会編輯 科学出版社 (中文)
- 昆虫学報 第17巻 第1期十
- 中国昆虫学会編輯 科学出版社 (中文)
- 微生物学報 第14巻 第1期十
- 中国微生物学会編輯 科学出版社 (中文)
- 動物学報 第20巻 第1期十
- 中国動物学会編輯 科学出版社 (中文)
- 地質学報 1974年 第1期十
- 中国地質学会・地質学報編輯委員会編輯 科学出版社 (中文)
- 地質科学 1974年 第1期十
- 中国科学院地質研究所編輯 科学出版社 (中文)
- 地球物理学報 第17巻 第1期十
- 中国地球物理学学会編輯 科学出版社 (中文)
- 地球化学 1974年 第1期十
- 中国科学院貴陽地球化学研究所編 科学出版社 (中文)
- 中華医学雑誌 1974年 第1期十
- [中華医学雑誌編輯委員会編 中国医学会] (中文・英文要訳あり)
- 文物 1974年 第1期十
- 文物編輯委員会編輯 文物出版社 (中文)
- 紅旗 1974年 第1期十
- 紅旗雑誌編輯委員会編輯 紅旗雑誌社 (中文)
- 科学通報 第19巻 第1期十
- 科学通報編輯委員会編集 科学出版社 (中文)
- 中国画報 1974年1月号十
- 中国画報社 (日本語)
- China Reconstructs, Vo1. 23. No.1十
- The China Welfare Institute. (英文)
- Chinese Literature. 1974 No.1十
- Foreign Language Press. (英文)

昭和49年8月24日現在

おしらせ (本館)

- (1) 延長開館について
 - 前期試験のため下記の通り開館時間を延長します。
 - 期間 9月9日(月)～27日(金)
 - 時間 月曜日～金曜日 17:00～19:30
 - 土曜日 12:00～16:00
- (2) 試験期間中(9月28日(土)まで)
 - 通常貸出を停止します。